



Title	スポーツファッションをテーマとしたファッションデザイン画
Author(s)	王, 怡
Citation	デザイン理論. 2023, 81, p. 64-65
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/91069
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

スポーツファッションをテーマとしたファッションデザイン画

王 怡 滋賀県立大学大学院在学

緒言

衣服が商品として製作される過程において、デザインを具体的に表現するデザイン画は、極めて重要である。特に人の感性に関わるファッションデザイン画では、多様なイメージを伝えるため、訴求力を持って描くことが大切である。

また、人体に着装される衣服を描くファッションデザイン画では、複雑な曲線の表現や、多様なイメージを伝えることが求められるため、線の描き方、すなわちドローイングが、着装像の印象に果たす役割は大きい。

一般的に、ファッションデザイン画では、手描きとデジタルドローイングの2つの方法がとられている。

ファッション分野では、アイデアを直観的に表現する方法として、手描きのスケッチをすることが多い。手描きでは、鉛筆、マーカーなどの道具を使い、紙面に直接、頭に浮かんだアイデアやイメージなどのデザイン情報を表現する。多くの場合、鉛筆で簡単にスケッチしながらシルエットを定めた上で、線画を含めて最終的なデザイン画へと完成させていく。

これに対して、デジタルドローイングでは、専用ソフトを用いてマウスやタブレットで、コンピューターの画面にデザイン情報を描いたり、手描きで描いた下絵をコンピューターに入力して線画に加工などを施して、デザイン画を描くことが多い。

近年、アパレルにおける設計においては、コンピューターでの作業が浸透し、デジタルドローイ

ングでデザイン画を描くことが日常的になってきており、今後はより一層、デジタル表現を活用することで、素材の質感や色彩、線の表情をさまざまに組み合わせたデザインや、イメージの表現に幅を広げることができる考える。

そこでこの作品では、手描きのファッションデザイン画を基にして、そこに表現される線の表情を活かした、デジタルドローイングによるファッションデザイン画を制作する。

方法と内容

テーマは、人の動きにエネルギーが感じられるダンス、体操、スケートボードとバスケットボール、とし、これらの4つのスポーツをデザインの対象とした。

まずアイデアの検討で、実際にスポーツをしている写真をコラージュして、スピード感や動きが感じられ、各々のスポーツらしい特徴が伝わるような姿勢を検討した。

そしてそれぞれのダイナミックな動きを念頭において、各々のスポーツの個性を活かしたファッションを考案した。

次にその手描きのデザイン画をコンピューター上にトレースして、デジタルドローイングとして、スポーツファッションのデザイン画を完成させた。

なおトレースは、Procreateを用いて行った。さらに着色や細部の仕上げを行い、最終的な作品を制作した。

結果および考察

手描きの際には、ケント紙に思いのままに線を引くことにより、瞬間的に浮かんだデザインを生み出すようにした。そして手描きに施された意匠表現を、個性ある動作に各々の躍動感が感じられるスポーツファッションのデザイン画を制作した(図1)。なおデジタルドローイングでは、服の素材感、柄や色彩などの検討を行った。

制作の結果から、手描きでアイデアを発想する際には、瞬間的に思いついた姿勢や動きを記録したり、直感で線を描いたり、自然な表現をすることができた。

そして、手描きに見られる線の意匠表現を観察すると、力強い、抑揚のある、弱々しいなど、さまざまな線の表情が感じ取られた。

すなわち、手描きで描いたデザイン画には、クリエイティブなアイデアを内包する重要な表現が可能であり、デザイナーの制作プロセスを明確にし、デザインの意図をより具現化することができる。従って、手描きの技術を習得することは、デザイナーの専門的な観察力やデッサン力を発揮するだけでなく、創造的なデザインを生み出すために不可欠であると考えられる。

一方で、デジタルドローイングは、その利便性により、服の色や素材感を表現する意味で極めて有用である。デジタルドローイングは、色彩や素材の多様な組み合わせや試作が可能であり、その意味で、豊かな表現の可能性を引き出すことができると言える。

デジタル画の機能の利便性により、保存や修正も非常に簡単になる。履歴を使って過去数回の操作に戻ることも可能なので、デザイン画の全体を見ながら、最適な結果を提示するために時間をかけて調整することが容易にできる。

ファッションデザイン画を描く際には、アイデアやイメージを発想するために手描きによるスケッチ作業は重要であることが確認された。手描きの意匠表現を便利な機能を持っているデジタルド

ローイングに表現することで、アイデアを具現化するための手段として使われると考える。

すでにデジタルドローイングもアイデアを具現化するための道具として使われているが、手描きで考えたアイデアをふまえたうえで、デジタル上で多彩で幅広い表現の最終作品を制作することにより、手描きとデジタルドローイングの各々の役割と良い特徴を活かしたデザイン画を描くことができると考える。



図1 スポーツファッションのデザイン画
上「スケートボード」 下「バスケットボール」